

平成22年度 「外部有識者会議」報告書



平成23年3月
福井工業高等専門学校

まえがき

本校の外部有識者会議は、本校の教育研究目標計画、自己評価その他学校運営に関する重要事項について学外有識者に審議、評価をお願いし、また、助言・勧告をいただくために設けられており、これまで本校にとって大きな役割を果たしてきた。

今年度は、全国の国立高専が一つにまとまって法人化してから7年目に当たる。5年ごとに策定される中期目標・計画期間の第一期目を終え、第2ステージの2年目を迎えている。

我が国の経済状況やそれを反映した雇用情勢は極めて厳しく、大学・短大・高専卒業予定者の内定率は、「就職氷河期」と言われた平成15年を下回る程で、就職率100%を誇る高専生にも大きな影響を及ぼしつつある。

また、全国の高専の動きとしては、一昨年10月に宮城、富山、香川、熊本の4地区において高度化再編が行われ、2校が一つとなったいわゆる「スーパー高専」が4校誕生し、それぞれが新たな学科構成や組織編成等により、教育の質の向上や地域社会との連携の強化等に取り組んでいる。

教育環境の整備については、平成20年度から校舎の全面改修工事に着手し、これまでに本館、機械工学科棟、電気電子工学科棟、物質工学科棟及び管理棟の工事が完了した。

また、念願だった女子寮の確保については、北寮を女子寮とすることとし、そのための改修工事を実施していたが、これも完了し、今年度から学生が入居している。これに伴い、男子寮生のために、施設の一部を改造して「西寮」を設けた。

このような状況の中、平成23年3月に平成22年度外部有識者会議を開催し、各委員から貴重なご意見、ご提言をいただいた。

今回いただいたご意見、ご提言については、学校関係者一同しっかりと胸に受け止め、今後の福井高専の運営や活動にできるだけ反映させていくよう努めたい。

福井工業高等専門学校長

池 田 大 祐

目 次

まえがき

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則	1
II. 外部有識者会議委員名簿	2
III. 外部有識者会議日程	3
IV. 本校出席者名簿	4
V. 講評	5
VI. 参考資料	6
① 本校の教育と研究の現状（企画室）	7
② 教務関係	11
③ 厚生補導関係	14
④ 寮務関係	17
⑤ 専攻科関係	20

I. 福井工業高等専門学校外部有識者会議規則

平成16年5月13日規則第21号

改正 平成16年 6月 3日規則第23号 平成19年 2月 1日規則第 1号
平成21年 3月30日規則第2号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校外部有識者会議（以下「会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 会議は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 会議は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 会議の議長は、委員の互選により定める。

(会議の開催)

第5条 会議は、校長が招集する。

2 会議は、年1回以上開催するものとする。

3 会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

第7条 会議の庶務は、総務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則（平成21年3月30日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

Ⅱ. 外部有識者会議委員名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

新 原 皓 一 長岡技術科学大学 学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

小 倉 久 和 福井大学 工学部長・工学研究科長

(本校の所在する地域の教育関係者)

岸 松 茂 鯖江市小中学校校長会 会長
(鯖江市中央中学校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

宮 崎 孝 司 福井県工業技術センター 所長

(産業界の有識者)

野 村 一 榮 鯖江商工会議所 会頭

(産業界の有識者)

美濃輪 武 久 信越化学工業(株) 磁性材料研究所 所長

(報道機関の有識者)

山 下 裕 己 (株) 福井新聞社 論説主幹

Ⅲ. 外部有識者会議日程

1. 日 時 平成23年3月8日(火) 13:30~17:00
2. 場 所 福井高専 大会議室
3. 日 程
 - 13:30 【開 会】 校長挨拶, 出席者の紹介, 議長選出
 - 13:45 【1. 本校の概要等】
昨年度の講評(提言)に対する回答について
本校の概要説明等について
.....教務主事・学生主事・寮務主事, 企画室長, 専攻科長
 - 14:45 — 休 憩 —
 - 15:00 【2. 全体討論・質疑応答】
 - 15:45 — 休 憩 — (委員による講評(提言)の打ち合わせ)
 - 16:15 【3. 講 評・提 言】
 - 16:40 【閉 会】 校長謝辞
4. 提示資料
 - ① 平成21年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言等
 - ② 自己点検・評価報告書
 - ③ 福井工業高等専門学校 平成22年度アクションプラン進捗状況
 - ④ 学校要覧 2010
 - ⑤ 学生便覧(平成22年度版)
 - ⑥ シラバス(本科, 専攻科)(平成22年度版)
 - ⑦ 福井高専の歩き方 - 2011 College Guide -
 - ⑧ 専攻科パンフレット 2010
 - ⑨ JOINT 2010 -地域連携テクノセンター活動紹介誌-
 - ⑩ 平成19年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム採択事業
「起業家育成による実践的キャリア教育の推進」成果報告書(平成22年3月)
 - ⑪ 国立高専情報発信戦略フォーラム2010
「高専のこれからの情報発信戦略を考える」実施報告書(平成22年11月)
 - ⑫ 女子中学生向けパンフレット「みんなで高専しよッ!」
 - ⑬ 「ふくい技術人」
 - ⑭ KOSEN ナビ(高専機構作成)
 - ⑮ キラキラ高専ガールになろう!(高専機構作成)

IV. 本校出席者名簿

校 長	池 田 大 祐
教務主事 (副校長)	安 丸 尚 樹 (機械工学科教授)
学生主事 (副校長)	上 島 晃 智 (物質工学科教授)
寮務主事 (副校長)	島 田 茂 (一般科目教室教授)
企画室長 (副校長)	田 中 嘉津彦 (機械工学科教授)
専攻科長 (校長補佐)・JABEE 委員長	阿 部 孝 弘 (環境都市工学科教授)
機械工学科長・教育システム評価委員長	加 藤 寛 敬
電気電子工学科長	前 多 信 博
電子情報工学科長	蘆 田 昇
物質工学科長	津 田 良 弘
環境都市工学科長	廣 部 英 一
一般科目教室 (自然科学系) 主任	山 本 裕 之
一般科目教室 (人文社会科学系) 主任	前 田 安 信
図 書 館 長	小 寺 光 雄 (一般科目教室教授)
創造教育開発センター長	坪 川 武 弘 (一般科目教室教授)
総合情報処理センター長	加 藤 省 三 (電子情報工学科教授)
地域連携テクノセンター長	山 田 幹 雄 (環境都市工学科教授)
教育研究支援センター長	前 川 公 男 (電子情報工学科教授)
事 務 部 長	武 田 良 正
総 務 課 長	鍛 治 肇
学 生 課 長	橘 田 良 一

V. 講評

[新原委員] 長岡技術科学大学 学長

概要説明を聞いて、全体的に大変素晴らしいと思いましたが、二点お願いがあります。

一点目は外部資金の獲得でございます。現在の経済情勢からは厳しいと思いますが、減少傾向にある外部資金の獲得は、教育・研究の向上、活性化につながるものであり、外部評価の重要な指標の一つとなるため、さらに努力していただきたい。

二点目ですが、寮に関する良い面の活用であります。私自身も高校から大学まで寮生活を10年ほど経験しましたが、寮には文系から理系までいろいろな人がいて、人間関係など多くのことを学びました。現在の寮は個室化が進み、私のような経験出来なくなっていると思うため、上級生が下級生を教える環境、留学生と日本人が交流する環境など、寮でしか出来ない教育と生活について再度考えて頂きたい。

[岸松委員] 鯖江市小中学校校長会 会長

私は新原委員とは観点が少し違いますが、福井高専は担任制がとられ、寮では寮監の先生が面倒をみてくれており、学生にとっては至れり尽くせりの環境で素晴らしいと思いますが、その一方で、そこまで必要なのかという気持ちもあります。その辺のバランスも難しいと思いますが、入学したからには卒業までいる学校であって欲しいと一番に願っています。そういう意味からも、地域から見守られ愛される学校、関心を持たれる学校にしていく努力をお願いします。

[野村委員] 鯖江商工会議所 会頭

私は、福井高専は素晴らしい学校だと思っていますが、ものづくり教育を通して起業家精神をぜひ養成していただきたいことと、優れた地元の企業を知ってもらうため、福井高専の学生に地元の産業フェアに積極的に参加するようご指導願いたい。

[美濃輪委員] 信越化学工業（株）磁性材料研究所 所長

これからの企業は中小企業も含め海外に出て行くことが益々多くなることが考えられるため、福井高専の中に世界を呼び込むというか、ここに来れば世界を感じるような仕組みを検討していただきたい。例えば、英語力を付けるために、留学生をもっと増やす、あるいは、外国人教員を採用しコミュニケーション能力を向上させるというような試みである。

[山下委員] (株)福井新聞社 論説主幹

工業や技術そのものにはあまり関係のない教養的な部分、英語であれ日本語であれ人と接する上でのコミュニケーション能力やデザインマインドを磨くことにも留意して欲しい。

[小倉議長] 福井大学 工学部長・工学研究科長

全体的な印象としては大変よく取り組んでいると思いますが、一方でここまでしなければならないのかという気もします。英語力・コミュニケーション能力の向上、外部資金の獲得、創造性の育成等々について各委員からコメントがありましたが、学校側として考える課題や問題点を意識して整理していく、高専が益々発展していくためには、課題をもう少し明確にした上で方向性を出していくことが必要ではないかと思えます。

※ 福井県工業技術センター 所長 宮崎委員におかれましては、所用により欠席されました。

VI. 参 考 資 料

福井高专外部有識者会議


本校の教育と研究の現状

企圖室
平成23年3月8日
福井工業高等専門学校





基本理念

1. 創造性豊かな人材を育成する。
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。



教育方針

1. 技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
2. 個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する。
3. 教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。
4. 健康の増進に努め、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
5. 規律ある日常生活に敬し、明朗、かつ遠大な責任のかん養を図る。



本科(準学士課程)学習・教育目標


RA 多様な文化や価値観を認識できる能力の育成

RB 自然科学と専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力の育成

RC 計画的に新しい課題に挑戦する能力の育成

RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力の育成

RE 問題を発見し、解決策を提案して実行する能力の育成



本科(準学士課程)学習・教育目標


RA 多様な文化や価値観を認識できる能力の育成

RB 自然科学と専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力の育成

RC 計画的に新しい課題に挑戦する能力の育成

RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力の育成

RE 問題を発見し、解決策を提案して実行する能力の育成



**専攻科「環境生産システム工学」
学習・教育目標**


JA 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成

JB 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成

JC 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成

JD 高度に情報化した国際社会に必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成

JE 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成



沿革

昭和40年 福井工業高等専門学校設置
(機械工学科、電気工学科、工業化学科)

昭和45年 土木工学科を増設

昭和63年 電子情報工学科を増設

平成5年 土木工学科を環境都市工学科に改組


平成7年 工業化学科を物質工学科に改組

平成10年 専攻科(生産、環境システム工学の2専攻)

平成17年 電気工学科を電気電子工学科に改称

現在: 機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、
物質工学科、環境都市工学科
生産システム工学専攻、環境システム工学専攻

卒業・修了生: 本科 6,418名, 専攻科 292名 (平成21年度末)



評価受審状況


(1) 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価

平成17年 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審し、指摘事項なしとの評価を受ける。


(2) 日本技術者教育認定機構

平成17年5月に日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定校となった。

平成18年11月に中間審査を、平成21年10月には継続審査を受審。



競争的資金採択状況

- 平成21年度高専機構特別教育研究経費「女子中学生の高等進学への理解増進と高ブランド取組による志願者の確保」
期間 平成21年度～平成22年度
 - 平成22年度高専機構特別教育研究経費「高専連携による、アントレプレナーシップ醸成・キャリア教育の進展」
期間 平成22年度～平成23年度
 - 平成22年度高専機構企業技術者等活用プログラム「ICTと地域とを融合させる共同教育の展開」
期間 平成22年度～平成24年度
 - 平成22年度経済産業省原子力人材育成プログラム「高専の一貫教育体制に即した原子力関連教育の実践」
期間 平成22年度
- 

平成17年度「工学基礎コース」の設置

コース	人数	コース	人数	コース	人数
機械工学科	116名	電気電子工学科	116名	環境都市工学科	116名
物質工学科	116名	電子情報工学科	116名	生産システム工学専攻	116名
環境都市工学科	116名	環境都市工学科	116名	環境都市工学科	116名
環境都市工学科	116名	環境都市工学科	116名	環境都市工学科	116名



平成22年度卒業・修了予定者の 就職・進学状況

	卒業・修了 予定者数	就職 予定者	進学 予定者	その他	求人倍率
本科	196名	104名	85名	7名	15.9倍
専攻科	30名	24名	3名	3名	21.0倍



本校の特徴ある教育

① ものづくり教育の推進

低学年における独創性・創造性を育む教育 (ものづくり科学, 3単位の導入)

平成17年度からの工学基礎コースの導入に併せて、PBL型学習の「ものづくり科学(3単位)」を導入し、低学年においても、ものづくり教育を行っている。



② 地域連携協定による地域支援の推進
和紙産業との共同研究、インターンシップ

隣接する今立町は、平安時代より和紙製造では、全国屈指の産地となっており、「紙の故郷」として有名である。本校では、和紙材料の保存方法と、染物の発色を促した処理方法に関する共同研究を行っている。また、これらの研究を学生がインターンシップとして参加し、教育的にも成果を還元する。



和紙産業

眼鏡産業との共同研究、アイデア募集

鯖江市は世界で最も大きな眼鏡製造拠地となっており、眼鏡の国内生産額の90%以上を占め、生産額は1,000億円近くとなっている。本校では眼鏡に関するアイデアコンテストである、「めがね@90」プロジェクトを平成16年度より全国に広げ、学生対象に開催している。また、眼鏡材料に関する共同研究も行っている。



眼鏡産業

③ キャリア教育の実施

平成22年度高専連携特別教育研究発表
「高専連携による、アントレプレナーシップ育成-キャリア教育の進展」

転換する学生や卒業生一人ひとりの成長を支援するため、ビジネスシステムの習得方法や専門知識を共有する総合的なキャリア教育を行っている。




アントレプレナーサポートセンターでの活動の様子

産学人材相互連携のシステム@iuc

福井高専

④ 地域における本校卒業生企業との連携

平成20年度より、(数)国立高専専門学校連携「企業技術者等活用プログラム」により、地域の卒業生企業家・技術者を招聘し、ICT教育や、ものづくり教育の活性化などの教育を行っている。この取り組みはNHKの全国放送や、全国紙で大きく報道された。



福井高専

地域と高専連携特別教育活用プログラム
ICTと地域とを融合させる共同教育の展開



ICT教育普及のための講習会

VR・3次元CAD教育普及のための講習会

福井高専

⑤ 各種理科コンテストの実施

マダネロボコンテスト

最新型VRロボコンテスト

ふくい教育マップコンテスト



共催事業： 鯖江市中学生ロボットコンテスト、
 産学ロボットコンテスト

福井高専

平成21年度高専連携特別教育研究経費

**女子中学生の高専進学への理解増進と
高ブランド戦略による志願者の確保**



高ブランドイメージの構築と学校情報の発信



テレビCMの制作と放映




女子中学生用学校紹介パンフレット



印刷と装画 **中国**



**女子中学生と保護者を
対象にした体験学習**




**女子中学生と保護者を
対象にした体験学習**



参加者数
中学生: 48名 [1年生(7名), 2年生(2名), 3年生(41名)]
保護者: 29名
H23年度入学希望者試験への応募者数: 34名



ふくい技術人の刊行



「ふくい技術人」創刊 **福井新聞の誌録**
C(2023年1月11日刊)



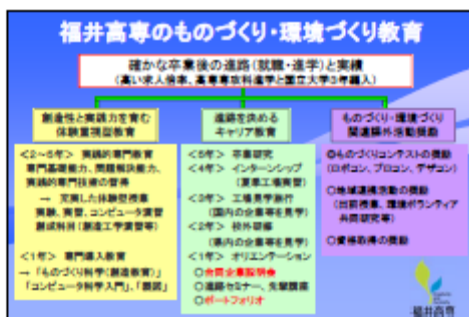


教務関係

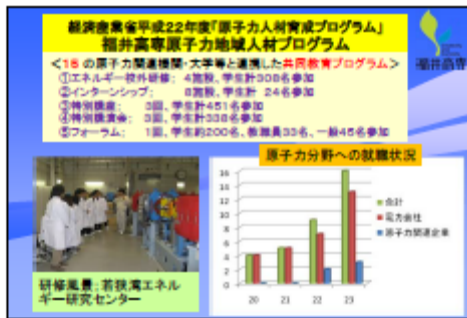
- ## 教務関係の取組(平成16～21年度)
- 平成16年度: 独立行政法人化(国立高等専門学校機構)
: JABEE(日本技術者教育認定機構)受審
 - 平成17年度: 工学基礎コース制度開始
: 大学評価・学位授与機構機関別**認証評価**受審
 - 平成18年度: 100分授業開始・学修単位の導入
: JABEE中間審査受審、学習到達度試験開始
 - 平成19年度: 創造教育開発センターの設置
 - 平成20年度: 50分・7限体制開始、校舎改修工事開始
 - 平成21年度: JABEE継続審査受審、校舎改修工事完成
新型インフルエンザへの対応

- ## JABEE・認証評価受審に伴う教育制度の改正
- 基本理念、学習・教育目標の制定
 - アドミッションポリシーの制定
 - シラバスの充実
 - エビデンス(成績評価資料)の保管
 - 学生アンケート(授業・教育環境)等の定期的実施
 - FD活動の充実、公開授業の実施
 - 教育点検システムの確立
 - 90分から100分授業体制へ移行

- ## 福井高専(本科)の教育の特長
- くさび形教育(専門科目が学年と共に増加)
 - 担任がゆめ細やかに指導
 - 体験型科目(実験・実習・演習・創成科目)や情報処理教育が充実
 - 1年: 混合学級(1クラスは工学基礎コース)
創成科目「ものづくり科学」の導入
 - 2～5年: 5学科に分かれて工学と理系基礎教育
最も自信のある工学分野の専攻力を身につける。
- M 機械工学科 E 電気電子工学科 EI 電子情報工学科
C 物質工学科 B 環境都市工学科



- ## 教務関係の取組(平成22年度)
- 原子力人材育成教育の開始
経産省原子力人材育成プログラム
 - 長岡技大との協働教育事業開始
戦略的技術者育成アドバンスドコース
 - 機関別認証評価受審に向けた対応
学習・教育目標の改正、達成度評価シート等整備
 - 特別支援教育への対応
特別支援WGの活動を基に特別支援室に強化



- ### 入試関係の取組(平成22年度)
- 入試に関する新入生へのアンケート調査
 - ◎正答に強い言葉!
 - 入試会場の5会場体制の継続と整備
 - 福井市会場(アオッサ)
 - 入試配布物の改善
 - カレッジガイドのデジタル化
 - キャンパスグッズ・マップの製作
 - 女子学生用パンフ、就学支援会対策
 - 入試関連行事の見直し
 - ◎新校舎完成記念キャンパスツアー(5月)の新設
 - オープンキャンパス(6、8月)の継続

入試行事①: キャンパスツアー *New!*

5月8日(土): スタンプラリー形式新校舎・施設見学会

参加: 計514名(生徒340名)
女子生徒126名!

高専キャンパスツアー2010
福井高専新校舎・施設見学会

新しい校舎

入試行事②: あじさいオープンキャンパス

6月20日(土): 公開授業、学校説明会、ロボコン実演

参加者: 計491名(生徒307名)、昨年度より34名減

福井高専で夢づくり!

入試行事③: オープンキャンパス(体験入学)

8月8日(土): 学科紹介・体験コーナー、交流コーナー

参加者: 計684名(生徒440名)、昨年度より83名増

オープンキャンパス(5月+6月+8月): 実参加生徒734名
昨年度より187名増





留学生受け入れ状況

3年: マレーシア1名、モンゴル1名、バングラディッシュ1名
 4年: マレーシア1名、モンゴル1名
 5年: マレーシア1名、カンボジア1名、インドネシア1名

留学奨励委員会 (EOL, H22.10)


留学生上の懇話会 (H22.12) 福高専

厚生補導関係




学生と担任制度

- ✓ 学生生活全般の指導(友人関係、生活行動の把握(欠課、欠席の点検)、健康観察、各種届け出の指導等)
- ✓ 学業成績、悩み等についての個別指導
- ✓ 特別活動の企画・実施(1～3年)
- ✓ 学校行事の指導・企画・引率
 - オリエンテーション(1年)、遠足・交流会、校外研修(2年)、工場見学旅行(3年)、校外実習(4年)、卒業研究発表会(5年)
- ✓ 進路(就職と進学)指導(3～5年)
 - 企業説明会(3、4、専1年)
- ✓ 保護者懇談会の実施(1～5年)




中期計画の中の担任制度

- ✓ 担任・副担任制度の継続
 - 学生に対するきめ細やかな対応(特に低学年)
 - 校門指導等のふれあう機会を増やした(H16年度開始)
- ✓ 学年主任制度の導入
 - 進路指導の強化:
 - 活動の早期化により3学年より開始(H16年度開始、進路指導室との連携)
 - 混合学級および低学年への対応を検討




学校行事①: 様々な体験活動の継続

- ✓ 新入生オリエンテーションキャンプ(1年)
 - (奥越に出向き1泊2日で催行)
- ✓ 遠足、校外研修(2年)、工場見学旅行・特別活動の自主企画(3年)、インターンシップ(4年)、卒業研究発表会(5年)



親交を深めあった新入生オリエンテーション



学校行事②: 学生会活動の奨励

- ✓ 体育祭 (4月)
- ✓ 弁論大会 (10月)
- ✓ 高専祭 (10月)









課外活動①: クラブ活動の奨励

- ✓ のびのびしたクラブ活動(受験競争なし)
 - ・クラブ数: 体育系21サークル、文化系・同好会24サークル
 - 学生加入数: 約800名、顧問教員数: 延べ54名
- ・ H21年度北陸地区高専体育大会
 - 優勝(団体): 男子テニス、女子卓球、男子バレーボール
 - サッカー(北信越大会)
- ・ H21年度全国高専体育大会:
 - 男子テニス団体優勝(2年連続)・男子シングルス準優勝


体育系数: 陸上、水泳、野球、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、

テニス、バドミントン、ソフトテニス、卓球、ハンドボール、剣道、

柔道、ソフトボール、空手、少林寺拳法、合気道

文化系数: プラマ/レゴ、まぜんミュージック、書道、

音楽・将棋、英語、エンタメコンテスト 等



課外活動②：コンテストの奨励と支援

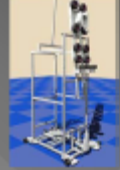
✓ものづくり・アイデア・技能のかん養
 ロボコン(全国大会11年連続出場)、
 プロコン、デザコン、RBO、ふくいビジネスプランコンテスト、
 各種ロボットコンテスト、英語スピーチコンテスト等




課外活動③：夢づくり工房プロジェクト

✓夢づくり工房(ドリームラボ)(H17-18年度設置)
 ロボコン、Robo-ONE(2足歩行ロボット)、
 知能機械演習

✓ロボコン用ホームページ
 の開設(H16年10月より)
 :過去の軌歴、
 ロボットのデモ活動、
 3Dアニメーション、
 QTVR等
 中学生へのアピールとして
 入試対策にも寄与



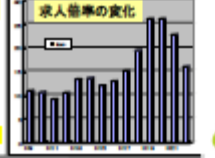
卒業生の進路：6年目の進路指導委員会

✓不況下でも高い求人倍率(平成22年度:1.6倍)
 ✓安定した就職先を確保、また進学先も充実

卒業生の進路(平成22年度)

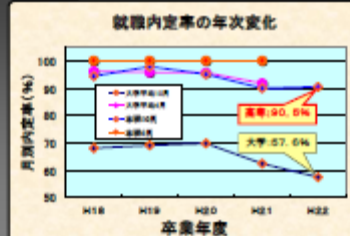
就職54% (昨年46%)	進学46% (昨年51%)
内、県内就職が30%	

求人倍率の変化



就職内定率推移

就職内定率の年次変化



就職内定率(%)

卒業年度

高専:90.9%
 大学:57.0%


中期計画：安全管理の強化

✓クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの改訂 & 年間練習計画の作成(H16年4月より)

✓課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備
 AED(自動体外式除細動器)を学内4箇所に設置
 各種施設の改修および耐震化工事等

✓クラブ活動の安全管理に関する講習

- 「クラブ活動における安全管理を中心とした指導について」
- H17年~22年:
 「AEDを用いた救急救命法実習」
 平成22年度48名参加



感染症対策の充実

麻疹対応(H19~)

- 麻疹抗体検査と検費補助によるワクチン接種の勧奨
 H22年現在、麻疹抗体率95%以上を確保
 (学校組織として)

新型インフルエンザなど感染症対応(H22年)

- 対策本部設置、状況に応じたきめ細かな対応

中期計画：メンタルヘルス関連

- ✓ 学生指導担当職員研究会の開催
 - H17年7月：「高専生のメンタルヘルス」
 - H20年7月：「息巻期・青年期の教育行動について」
 - H20年7月：学生指導室の選任試験会（特別室関係教職員）
 - H21年7月：「発達障害の理解と対応」
 - H22年7月：「ストレスと上手につきあおう」
- ✓ メンタルヘルス関連の充実
 - H16年より毎年実施：学生相談関連アンケート（全学生）
 - H19年1月：いじめに関するアンケート（1～3年）
 - H19年度より外部の専門カウンセラーによる特選を3回に拡充
 - 各種講習会・講演会への積極出席
 - H20年度末、学習支援のためのプロジェクトチームを設立
 - H22年度末：上野チームを **マインドフルネス** インターカースとして **特別室の職員** の協力


各種講習会・講演会への積極出席

各種講習会・講演会への積極出席

各種講習会・講演会への積極出席


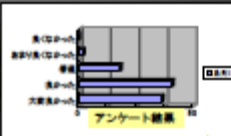
各種講習会・講演会への積極出席

各種講習会・講演会への積極出席




中期計画：ボランティア関連

- ✓ ボランティア活動の奨励
 - H22年10月：第6回クリーン大作戦（176名参加）
 - 菊花マラソン優勝者の部 伴走支援
 - 寮生 貸式台清掃活動


アンケート結果

よかった理由：何か良いことをした気になった。いい気持ち。



5年一貫教育の利点を生かした 人格形成の人間教育を実践

- * 担任制度の充実
- * クラブ活動・学生会活動への積極参加
- * 各種コンテストへの参加奨励
- * メンタルヘルス・安全管理の強化
- * ボランティア活動への自主的参加
- * アントレプレナーサポートセンターを
中心にした、起業家精神の涵養
- * 進路指導室と連携したキャリア教育の充実



寮務関係

福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮及び西寮の4棟からなる。今年度から**北寮が改修され、独立した女子寮**になり、定員は245名となった。

学寮は遠隔地からの学生に毎日の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓蒙し、人間形成を図るという目的で設置され、**全教員が文責で寮長として泊り、寮生との親れ合いを大切にする教員寮**として位置付けられている。

管理運営組織

- 学寮運営委員会(10名)
- 寮務主事団(7名)
- 学生観学生生活係(2名)
- 寮監(平口2名)
- 寮生会役員(10名)

寮生の出身地

福井県	滋賀県	岐阜県 石川県 愛知県など	オーストラリア、インドネシア、フィリピン、タイ、インドネシア、カンボジア
約140名	約80名	数名	8名(男子)

男子	女子
187名	37名



学寮の施設-1-

南寮・・・男子75名(1階は留學生)(全室個室)
 東寮(20年度改修)
 調理室 シャワールーム
 (LAN, 空調付き)
 デュラター寮



西寮・・・男子25名
 (4人部屋と2人部屋)

学寮の施設-2-



北寮・・・女子37名
 (個室と2人部屋)



東寮・・・男子87名(全室個室)

女子寮 -1 セキュリティ

カードキー式電子ロックと
インターホン

福井大学

女子寮 -2 きれいで快適な住環境



福井大学

学寮の施設-3-

付属施設
(管理事務室・学習室・食堂・浴室)




食堂(2階元階)

浴室

福井大学



本年度学寮運営の目標

- ①開かれた学寮作り
- ②国際化への準備
- ③ハード・ソフト両面からの学寮の改善・改良

福井大学

①開かれた学寮作り

- ・積極的な学寮案内
- ・オープンキャンパス等でのPR(3回)同時案内
- ・欄干テレビ「おかしなない」収録
- ・フェルツゴビナ教育後援隊見学

- ・寮生活活動の活性化
 - ・他高専学生会との交流
 - ・創設高専学生会との交流会
 - ・全国高専学生会委員会との交流

福井大学

②国際化への準備

- ・現在男子留学生の受け入れ
一拡充『女子留学生受け入れの準備』
- ・他高専の受け入れ状況の調査
多数の高専で受け入れ・棟数名
- ・東海・北陸地区要務指導会種に出席
受け入れまでの留意点の調査

福井大学

③ハード・ソフト両面からの学寮の改善・改良

- ・寮生役員会 寮生の意見・問題の情報を収集
- ・施設・設備面での改善・元来の計画実行
- ・寮監マニュアルの点検と見直し
- ・寮生アンケートの実施



今年度の成果

- ・他高専との交流
寮生会の意識変化
- ・施設整備の改善箇所多数*
- ・寮生アンケートの満足度が非常に高い
- ・寮監マニュアルの改訂



今秋の課題

- ① 夏休みの施設整備
- ② 生活環境の改善
- ③ 寮生アンケートの実施
- ④ 寮監マニュアルの見直し
- ⑤ 寮生会役員会の活動
- ⑥ 寮生会役員会の活動
- ⑦ 寮生会役員会の活動
- ⑧ 寮生会役員会の活動

学寮実行等

- ① 寮生会役員会
- ② 寮生会役員会
- ③ 寮生会役員会
- ④ 寮生会役員会
- ⑤ 寮生会役員会
- ⑥ 寮生会役員会
- ⑦ 寮生会役員会
- ⑧ 寮生会役員会

生活環境とメンタルケア



* 学寮施設等改善箇所

- ・高寮高側樹木伐採(投光と景観)
- ・高寮居室カビ対策修繕(クロス・床・天井塗装)
- ・女子寮浴室循環ポンプ取替工事
- ・食堂食器洗浄機更新
- ・プレハブ倉庫設置
- ・西寮設備改善(キッチンシステム関係)
- ・東京・南寮通り廊下等マット改修工事
- ・北寮玄関前コンクリート補修工事



専攻科



専攻科制度

- ・本科の上にある2年制の教育課程
- ・高等専門学校における教育の基礎の上に、清新な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。
- ・H20年度には、認定専攻科における教育の実施状況等の審査を受審 => 満の評価
- ・大学評価・学位授与機構の審査により学士号取得
- ・本科4、5年のカリキュラムを加えて、技術者教育プログラム「環境生産システム工学」(JABEE認定プログラム: 総合・複合分野)を実施



専攻科制度

定員(1学年) 20名

生産システム工学専攻(12名)

出身:機械工学科, 電気電子工学科, 電子情報工学科

環境システム工学専攻(8名)

出身:物質工学科, 環境都市工学科

修了要件

2年以上在学し、62単位以上の修得

「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成



学生数

在籍者数

1年生:27名 2年生:30名 計57名

修了者数

H21年度:31名(JABEE修了:31名)

志願者数

H21年度:37名 H22年度:46名

H23入學予定数 27名(他高専から2名)



就職・進学

求人倍率:21倍

就職先(県内就職:17名, 県外就職7名)

アイテック, 播原織物工業, ウラセ, 共同コンピュータ,
フクビ化学工業, ミルコン, 福井県, 福井市 など

進学先

岐阜大学大学院, 奈良先端科学技術大学院大学



カリキュラム

一般科目6単位開講, 4単位以上修得

専門共通科目33単位開講, 25単位以上修得

専門展開科目45単位開講, 33単位以上修得

11科目で各2~3回の授業の非常勤講師

(技術士, 非理士, NPO理事長, OBの起業家等)

北陸技術交流テクノフェアでの技術シーズ発表会

約1ヶ月のインターンシップ(1年生全員)


H22年度 県内企業14社15名, 県内官公庁関連5名

大学院2名, 県外企業5名(県内支社3名)




H22専攻科学生年間行事

- 4/ 7 専攻科オリエンテーション
- 4/22 特別研究中間発表会
- 6/18 大学院訪問(北陸先端科学技術大学院大学, 金沢大学)
- 7/ 2 学位授与説明会および単位互換制度説明会
- 7/ 9 JDream II 説明会
- 8/ 4 知財セミナー「特許法の本質とその活用」
- 8/ 6 女子学生の工場見学
- 10/14 インターンシップ報告会
- 10/21,22 北陸技術交流テクノフェア参加・発表
- 10/23 合同企業説明会
- 11/ 6 大学院説明会
- 11/11,12 ASET17参加・発表
- 12/21 知財セミナー「ゼロから学べる知的財産」
- 2/17 特別研究発表会




成果の発表

技術シーズ発表会
(福井県産業振興課)




エコテクノロジーに関する国際
シンポジウム 17th ASET
(学術院)



学生の表彰

- ・ASET Good Student Award (17th ASET, H21.10)
- ・家庭登録文庫対象作品(平成22年度デザイン/パレントコンテスト)




専攻科と本科の連携

総合試験(数学, 情報)の**本科生の受験**

TOEIC-IPテスト(年5回)の**本科生の受験**

学力選抜試験科目「英語」の評価に, 外部試験の
評価を導入 => 申請者には**英語試験を免除**




厚生・補導・課外活動

TOEIC高得点者(3名)を表彰

出前授業, 公開講座, オープンキャンパス,
サイエンスフェア等への参加

専攻科生との懇談会



平成 22 年度「外部有識者会議」報告書

発行 福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
電話 0778-62-1111
FAX 0778-62-2597
